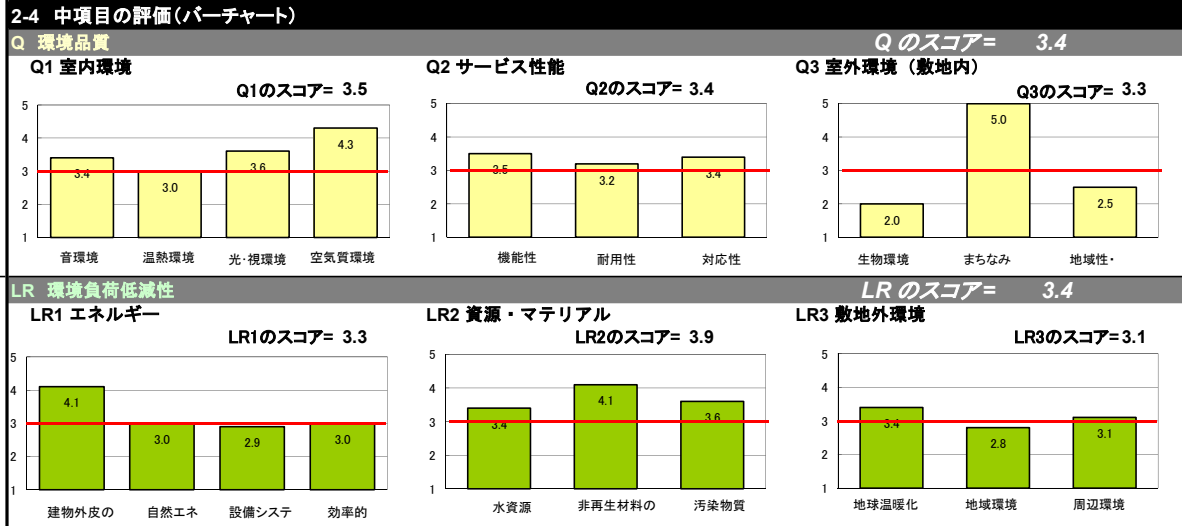
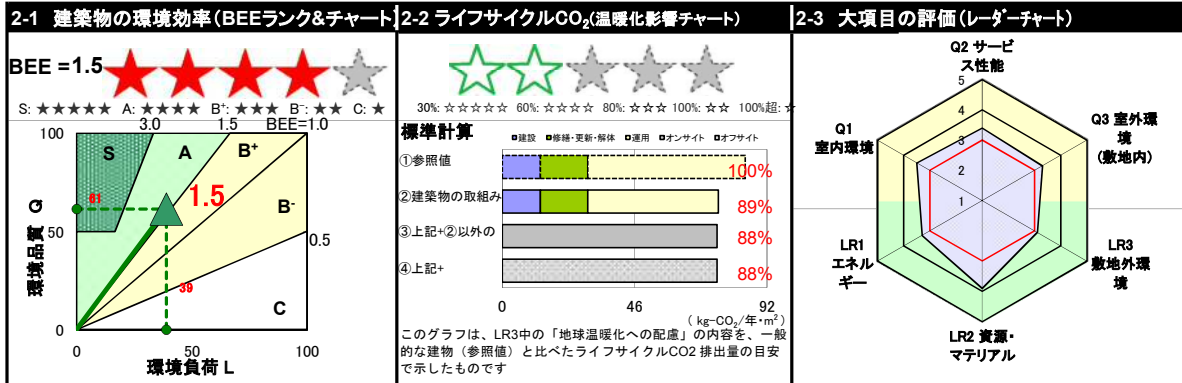


1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	名古屋地家裁半田支部庁舎		階数	地下0階地上4階
建設地	愛知県半田市宮路町200番2、愛知県		構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域		平均居住人員	80人
気候区分	6地域		年間使用時間	1,960時間/年
建物用途	事務所		評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年2月	予定	評価の実施日	2019年9月13日
敷地面積	2,012 m ²		作成者	坂口 祐二
建築面積	870 m ²		確認日	2019年9月16日
延床面積	3,290 m ²		確認者	落合 嘉彦



3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.4</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <p>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">11.0 %</p> <p>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.7</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>タイル</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

3 対応性・更新性				3.4	0.29				3.4
3.1 空間のゆとり				4.6	0.31				
1 階高のゆとり			階高4.0m	5.0	0.60				
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率=0.209182	4.0	0.40				
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31				
3.3 設備の更新性				3.0	0.38				
1 空調配管の更新性		②		3.0	0.17				
2 給排水管の更新性				3.0	0.17				
3 電気配線の更新性				3.0	0.11				
4 通信配線の更新性				3.0	0.11				
5 設備機器の更新性				3.0	0.22				
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22				
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30				3.3
1 生物環境の保全と創出		独自③		2.0	0.30				2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	地域性のあるタイルを外壁に使用している。	5.0	0.40				5.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30				2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		3.0	0.50				
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50				
LR 建築物の環境負荷低減性									3.4
LR1 エネルギー					0.40				3.3
1 建物外皮の熱負荷抑制			断熱性が高い材料を使用している。	4.1	0.30				4.1
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20				3.0
3 設備システムの高効率化				2.9	0.30				2.9
4 効率的運用				3.0	0.20				3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00				
4.1 モニタリング				3.0	0.50				
4.2 運用管理体制				3.0	0.50				
集合住宅の評価				-	-				
4.1 モニタリング				-	-				
4.2 運用管理体制				-	-				
LR2 資源・マテリアル					0.30				3.9
1 水資源保護				3.4	0.15				3.4
1.1 節水			節水型便器、自動水栓の使用をしている。	4.0	0.40				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60				
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67				
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33				
2 非再生性資源の使用量削減				4.1	0.63				4.1
2.1 材料使用量の削減		②		2.0	0.07				
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		独自	基礎・基礎梁、高炉セメント	5.0	0.20				
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	製材(法廷内仕切り柵)、集成材(額縁、カーテンボックス)、フリーアクセスフロア(事務室)	5.0	0.20				
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05				
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	OAフロアを使用している。天然木材を使用している。	5.0	0.24				
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.6	0.22				3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			環境への配慮として使用材料を選定している。	5.0	0.32				
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68				
1 消火剤				-	-				
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50				
3 冷媒				3.0	0.50				
LR3 敷地外環境					0.30				3.1
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率88%	3.4	0.33				3.4
2 地域環境への配慮				2.8	0.33				2.8
2.1 大気汚染防止			熱源としてガスだき吸収冷温水機を使用	4.0	0.25				
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50				
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.5	0.25				
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25				
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25				
3 交通負荷抑制		独自	駐輪場・駐車場のスペースを確保し、周囲に配慮し車寄せの設置や押送車の待機スペースを設けている。	5.0	0.25				
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25				
3 周辺環境への配慮				3.1	0.33				3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40				
1 騒音		独自		3.0	1.00				
2 振動		独自		-	-				
3 悪臭				-	-				
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40				
1 風害の抑制				3.0	0.70				
2 砂塵の抑制				-	-				
3 日照障害の抑制				3.0	0.30				
3.3 光害の抑制				3.7	0.20				
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			1)「光害対策ガイドライン」のチェックリストを満たしている項目が一部である。2)「広告物照明の扱い」の配慮事項の過半を満たしている	4.0	0.70				
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30				

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.4
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.4	0.10	
② 資源の有効活用				3.7
Q2-2	耐震性・信頼性	3.2	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	4.1	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:11%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				3.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	2.0	-	タイル
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 名古屋地家裁半田支部庁

計画上の配慮事項	
総合	利用者に配慮しF☆☆☆☆を採用している。また給排水配管は耐用年数が長い材料を使用している。
Q1 室内環境	F☆☆☆☆を採用している。
Q2 サービス性能	給排水配管は耐用年数が長い材料を使用している。
Q3 室外環境(敷地内)	地域性のあるタイルを外壁に使用している。
LR1 エネルギー	断熱性が高い材料を使用している。
LR2 資源・マテリアル	OAフロアを使用している。
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO2排出率88%
その他	特になし。